

令和8年度 第1回徳島県立阿南支援学校 学校運営協議会記録

○出席者：A委員、B委員、C委員、D委員、E委員、G委員（校長）

（事務局）A教頭、B教頭、小学部副学部長、中学部長

○欠席者：F委員、高等部長

1 日 時

令和8年6月22日（月）9：00～11：00

2 場 所

徳島県立阿南支援学校 会議室

3 日 程

9：00～10：55 協議

10：55～11：00 事務連絡

4 内 容

（1）開会

（2）学校長挨拶

（3）自己紹介

（4）役員選出

・昨年度に続き、会長をA委員、副会長をG委員（校長）で、承認された。

（5）会長挨拶

（6）協議

学校の取組について

①学校経営方針について（校長）

・校長より、学校経営方針について説明があった。

②学校評価及び学校の取組について（教頭・学部長・副学部長）

・各学部・各課による今年度の学校評価（重点目標・評価指標と活動計画）について、スライドを提示して説明した。

③各委員からの提言等について

【図書情報課】

B教頭：福祉サービス事業所でのICT活用状況はどうか。

B委員：PC以上にタブレット活用が普及しており、個人所有の利用者もいる。

SNS 利用上の情報モラル対策については福祉施設の職員が利用者さんにソーシャルスキルトレーニングを実施している。

【人権生活課】

B 教頭：施設では、利用者送迎における安全対策をどうされているか。

B 委員：利用者さん（保護者）ニーズもあり、段々とドアトゥドア（個別の送迎）の形になってきている。

B 教頭：学校では生徒や、その日によって登下校の手段が異なることあるため、毎日の連絡帳や電話で直接、保護者に問い合わせる等で気をつけている。

【総務保健課】

B 教頭：施設での防災対策や課題は。

B 委員：コストがかかることと、長期保存の備蓄食はおいしくなく、利用者さんに食べてもらえない。他の施設に問い合わせてみると、朝ご飯を冷凍してストックしている施設もあるようだ。

B 教頭：備蓄食の費用はどこから出ているのか。個人で購入して持参しているのか。

B 委員：施設から賄われている。

D 委員：薬（常用薬）は災害時に備え、どのように学校で預かってもらっているのか。東日本大震災時も安定供給までに3ヶ月がかかったと言われている。血中濃度がすぐ発作に影響する場合もある。これまでの被災経験を通して、1週間分ほど必要と言われているが、多く持たせることはできないのか。

田中校長：学校では通学カバンに3日分を処方箋と一緒に入れてある。消費期限とか多くの量を持たせるリスクがあるのかもしれない。多く持ち歩くことは管理の面で難しいのかも。本校で被災された場合、道が分断されることもあるので1週間程度を補完しておきたいところ。養護教諭や関係機関と情報共有の上、検討する。

C 委員：災害時には子どもだけでなく、地域の人も学校が避難場所になる。

個別の事情を担当、保護者が情報共有しておくことが大事。

E 委員：親としてはできるだけ多く薬は持っている方が安心。

校長：養護教諭、PTA 役員会で諮ってみる。保護者の要望によって試行的に取り組んでみるのもいいか。

D 委員・実際のところ、保護者はそこまでの大変なことになるという危機感はないだろう。

A 委員：保護者の方に意識を持っておいてもらい、どうするかを考えておいてもらう。家庭生活から防災に対する意識をもっておいてもらうことが大事。

学校が情報発信、呼びかけをすることが役割として求められるのではないか。

【小学部】

A 委員：児童の指導における実践研究では、各グループで検討会という。グループとは小学部の1～3年生、4～6年生ごとに2回の合計4回ということか。

小学部副学部長：課題学習の2クラスぐらいで、それぞれの各グループが年間4回行う。

C 委員：AI－PAC とは何ですか？

小学部副学部長：包括的な発達支援の指導支援システムのこと。発達段階に応じて各項目毎に到達、未到達が視覚的にわかるもの。

C委員：コンピューターを使ったシステムではないのですね。

校長：NPO法人ADDSの熊先生が開発した発達支援システムのこと。系統立てた指導が目的。各項目ごとに目標、指導方法がパッケージ化されている。徳島県教育委員会も協力の上、本校小学部で取り組んでいる。

【中学部】

A委員：わかりやすい方法であり、目標は達成していけるだろう。それだけではなく、うまくいかないとき、達成できないときも違った手立て、方法をグループで検討することで、次の支援につなげていけるのではないかと思う。

【高等部】

E委員：進路先で必要とされるコミュニケーション能力とはどんなことか。

校長：挨拶、報告、わからない事が言えることなど。学校では先生に言えるが、その場では言えないとか自発性が弱い子、お察し下さい、というタイプの子が割と多い。小学部の時から積み上げていっている。

B委員：就職で言うところの施設ではトレーニングの中で、例えば熱中症にならないよう休憩をとれるよう要求することなどを行っている。就職のために休まず頑張ることが正解と思いがちだが、結果それで体調を崩しては働くことを続けられなくなることになるので、そうならないようにすることの方を優先して教えている。障がい程度の重い方だと、ジャスチャーであるとか学校で教わってきた方法で伝えられるよう取り組んでいる。

A教頭：現場実習、就業体験では心得を作っていて、挨拶、質問、報告、連絡、支援要求、電話で帰宅連絡などコミュニケーション等生徒の実態に応じて、指導している。

A委員：何を向上させるかが課題かなと思うが、できれば100%向上となるような目標になるようにしたい。どこを向上とみるかなので、何を目標にするか具体的に評価できるような目標設定が大事。本人にとって達成しやすいような目標がいいと思う。

【進路指導課】

A委員：評価指標に「就業体験において（小学部、中学部は見学）」と書いてあるが、これは、小・中学部もしているよという程度ですね。これは説明、補足ですね。実際に見学することなので、評価するのが妥当だろう。

【研究課】

B教頭：コンサルテーションは外部の専門家から直接見てもらったり、オンラインで助言をいただくことで、私たちの専門性向上に大いに役立つことが期待されるので、今後ともA委員を始め、専門家の先生方にはご協力をお願いしたい。

A委員：「あなん自立labo」の評価指標は、前年度より増えていたらOKとするが、評価の仕方は難しいか。例えばこの蓄積したデータを元にして生成AIとかけわけて指導案や具体的な指導方法などを提案してもらうとか、活用の可能性は広がりそう。

A教頭：自立活動の区分項目をクリックすれば適切なフォーマットを作成して

くれて、次からの実際の指導に役立てられることもできるわけですね。

A委員：より便利になるよう活用を工夫する必要はある。

【特別活動課】

C委員：今年も9月27日（日）阿南西部公園祭りがあり、阿南支援学校さんにはテント2梁の用意があるので、是非ご参加いただき、自由に活動してほしい。支援学校さんは生徒会を中心として、他の小中学校や高校からの参加もあるので、交流を図っていただくことで1つの教育の輪になると期待している。大野小学校に講師依頼があった際には、支援学校さんの生徒さんが普段から西部公園の清掃活動をしてくれたりと、大いに地域貢献してくれていることを宣伝してありますので、当日もご活躍いただきたい。今年は各ブース毎に特色のある看板も立ててもらうことにしたので、ご準備下さい。

B教頭：阿南西部公園祭りでは、生徒にアンケートをとって評価するとなっており、ショッピングセンターでの作品展示についても、評価指標を教員側のものに直す必要がありますね。

A委員：作品紹介やアンケートを実施するのは活動計画に入れ、この取り組みに対する感想を保護者にいただくとか、結果が具体的にわかるものがないだろう。

校長：ひまくりンボードにシール貼ってもらって来場者数がわかったりするようにしている。その他の工夫も考えたい。

【教務課】

特になし。

【特別支援課】

B委員：相談員の仕事というのは。

B教頭：学校内では授業もしているが、曜日を決めて地域に出向いて相談活動を行い、地域の先生方の専門性向上を図っている。

【その他】

校長：施設でのICT活用の実態をもう少し詳しくお聞かせ頂きたい。

B委員：職員に関しては職員間連絡とか書類の共有など業務のICT化を進めている。タブレットを使って作業中にBGMを流すとかいうような使い方をしていて、利用者さんは個人でスマホや携帯電話を持っている人は、余暇や連絡の手段として使っている。SNSの指導を始めたというのは、情報モラルの目的もあるが、就職トレーニングの一環として始めた。就職後のSNSトラブルへの対応として行っている。

校長：学校教育ではAI活用など普及が急がされているが、施設においてもタブレットが日常的に使われているのかと思っていたが、そうではないんですね。カードに変わるようなコミュニケーションに関するアプリも充実してきており、言葉の獲得に寄与するケースもあるので、連携して使って行けばいいと考えている。

A委員：学校で学んだことが連携できないことはもったいない。ICT機器活用について卒業後の移行は1つの課題といえる。

D委員：タブレットは大きいので、割れたりするし、管理が難しい。スマホぐらいの大きさがちょうどいい。

A委員：スマホをうまくコミュニケーションツールとして活用できる方もいる。

B教頭：〇×や～くださいなど個別に応じて活用の可能性は高まる。

校長：スマホに移行できてきたらいいか。

校長：送迎が個別というのは、個別で1軒1軒とうことか。

B委員：これまでは大きめの車に数名が乗り、主要な停留所まで迎えにきてもらっていたが、なるべく乗用車で支援員が運転して自宅まで送るようになっていいる。こうしたニーズが高いので行っている。制度的には元来そういうルール。

(7) 事務連絡

① スクールバスに関すること

- ・本校で使用しているスクールバス位置情報“ラクバス”について、資料を提示して説明した。

② 30周年記念行事について

- ・記念行事の日や、記念品等についてお知らせした。

③ 第2・3回学校運営協議会について

- ・後日調整する旨を伝えた。

④ 資料5：令和8年度とくしま推進フォーラム

- ・資料を配付して案内した。

⑤ 地域学校協働活動推進員について

- ・今年度に設置された地域学校協働活動推進員に、D委員が任命されたことをお伝えした。

(8) 閉会